

## 人権授業

人権週間に合わせて、2020 東京パラリンピック馬術日本代表の稲葉将選手をお招きして、子どもたちに向けて講演を行っていただきました。

稲葉選手は生まれつき足に障害があり、医師から「一生車いすでの生活になるかもしれない」と言われていたそうです。しかし努力して自ら歩いて生活できるようにし、小学生時代には野球もやり、6年生のころ初めて馬に乗ったとのことでした。

馬術は馬とともに行う競技なので、馬と仲良く協力し合わなければなりません。そのためにパートナーである馬に対して「自分から相手のことを知ろうとする」ことを大切にしているそうです。これは人間同士のかかわりでも同じこと、と話していました。

足の障害のためにすぐにはできないこともあり、「これは自分にできるか、できないか」と考える中で、「できないことはどうやったらできるか？」と工夫することを考えるそうです。12月5日（月）の人権講話で、私は「できないことはくり返す、練習することでできるようにする」「できなくてもがんばる」と話しました。ここで新たに「どうやったらできるか工夫する」という手立てを教えていただきました。

週に5日は静岡にある練習場に行き、パートナーである馬の「カサノバ」号の世話をしたり、一緒に練習したりするそうです。また、2月ぐらいから海外に遠征に行く、とも話していました。東京パラリンピックの話も含めて、パワフルでエネルギッシュな稲葉選手に、元気をもらったように思います。さらにこれからのご活躍を期待して、応援したいと思いません。

